

一 般 演 題

1. Tl-201 心筋 SPECT 定量法による筋ジストロフィー患者の予後予測について

齋部 寛 大島 統男 佐久間貞行
(名古屋大・放)

目的 Thallium-201 心筋 SPECT による筋ジストロフィー患者の病変定量化を試み、予後予測を検討した。

対象 59年から60年にかけて当院にて Tl-201 心筋 SPECT を施行し予後が把握できた筋ジストロフィー患者 27例。現在 6例が死亡(死因は呼吸不全)。3例は呼吸不全心不全状態で、残り 18例は健在。

方法 安静時 Tl-201 による心筋シンチを施行。short axial image の 5~6 スライスを選択して、それぞれの circumferential profile curve (CPC) を求め以下のスコアを算出した。A: 正常 12 症例の CPC 平均 \pm 2 SD 以下 (M) の範囲。B: M の面積。C: M の比率。D: M の体積。

結果 相関係数は A, B, C 間は r が 0.93 以上でよく相関した。各スコアから予後に関する Sensitivity と Specificity を求めた。各スコアとも Sensitivity は 67%。Specificity は 100% であった。

2. Bland-White-Garland 症候群の 1 例

—²⁰¹Tl 心筋 SPECT による評価—

大島 統男 佐久間貞行 (名古屋大・放)
比嘉 信喜 小川 裕 田中 孝二
小林 英敏 (岐阜県立多治見病院)

最近経験した B-W-G 症候群につき術前、術後の ²⁰¹Tl 心筋 SPECT を施行し心筋の viability を評価する機会を得たので報告する。症例は 16 歳の女性で学校検診で心雑音を指摘された。負荷心電図で V₅, V₆ に ST 低下を認めた。術前の運動負荷による ²⁰¹Tl 心筋シンチでは、プラナー像では明らかな所見を認めなかったが SPECT 像では冠状断層像、矢状断層像にて前壁に欠損を認め、3 時間後の再分布像で欠損が消失したところから一時的虚血と診断した。術後 5 か月目に再度運動負荷 ²⁰¹Tl 心筋 SPECT を施行したところ、術前の欠損は消失した。本疾患は稀な先天性心疾患であるが、その左室心筋の

viability を評価する上で ²⁰¹Tl 心筋 SPECT は有効であった。

3. Tc-99m DTPA 連続腎スキャンで、いわゆる Bone Marrow Hyperemia のみられた 3 例について

上野 恭一 (石川県立中央病院・放)
河村 洋一 (同・血液内科)
金兼 和弘 久保 実 (同・小児内科)

われわれは Tc-99m DTPA による連続腎スキャンで脊椎、骨盤の描画をみた、まれな 1 例を経験し、直接、Clin Nucl Med 4: 20, 1979 に発表した。これは、静注直後の血液プールを反映する早期に、脊柱、骨盤が描画されるが、トレーサの腎集積にもなって、次第に消失する所見であり、血液疾患との関連は十分予想されたものの、その臨床的意義は判然としなかった。近年 Klein HA ら、Zucker LS らの同様の報告があり、われわれも、ここ 10 年間の Tc-99m DTPA 腎スキャン 1,200 例を検討し、上記の 1 例を含む 3 例 [急性白血病 2 例、神経芽細胞腫 (骨髄転移) 1 例] を認めた。いずれも末期例であり、骨髄腫瘍性病変と化学療法による造血障害が認められた。

4. ^{99m}Tc-DTPA Renoscintigram の Factor Analysis による検討

小野 元嗣 竹田 寛 前田 寿澄
寺田 尚弘 伊藤 綱朗 中川 毅
山口 信夫 (三重大・放)

正常人 5 例を対象に、^{99m}Tc-DTPA Renoscintigram を施行し、得られたデータを Factor Analysis を用いて解析し、抽出された機能成分の臨床的意義につき検討を加えた。

最初 5 分間のデータの 3 factor analysis では、腎皮質、腎髄質および腎盂領域のカーブに相当する 3 つの factor が抽出された。そのうち、腎皮質カーブはボーラス通過後 1 分程の plateau を経過した後、軽度の再上